

山行報告



◆ 立山（雄山）・劔岳山行

日 程 9月16日（金）～9月19日（月）【夜行バス利用】

参加者 L：山内 SL：原田 山口博 井上 吉井 山口好 6名

山行記録

1日目	コース	J R 加古川 ⇒ 大阪着 バス ⇒ 富山駅前							
	時 間	19:41 発 20:29 着 21:40 発 4:55 着							
2日目	コース	富山駅 ⇒ ケーブル⇒室堂～一の越 ～ 雄山 ～ 大汝山～富士ノ折立～真砂岳～別山乗越～劔山御前小舎～ 劔山荘							
	時 間	5:20 (急)	7:10	8:30	9:35	10:25	11:30	12:00	13:00
3日目	コース	劔山荘～一服劔～前劔～劔岳山頂～前劔～劔山荘 ～劔山荘発～劔山御前小舎～雷鳥平～みくりが池温泉～バスターミナル ⇒ 立山駅 ⇒ 富山駅 バス発							
	時 間	6:05	6:30	7:20	9:05	10:20	11:10	11:40	12:55
4日目	コース	大阪梅田バスターミナル⇒自宅							
	時 間	6:40 着							

【感想文】 原田(勝)

立山行きの車内はほとんどがリュックを背負った人たちで満席であった。

3月の雪解けで一部バスの振り替えで山に近づくにつれて、稜線がはっきりとしてきた。

ケーブルに乗り継いで、美女平の気温は9℃でナナカマドの実も高度を増すにつれて、鮮やかな朱色で、我々を歓迎してくれているかのようだ。

雄山へ向かう石畳の左右には、チングルマ、ミヤマアキノキリンソウ、ヤマハハコ、コバイケソウ、ヨツバシオガマなどは既に終わりお告げ、わずかにウサギギクが黄色い花を咲かせていた。

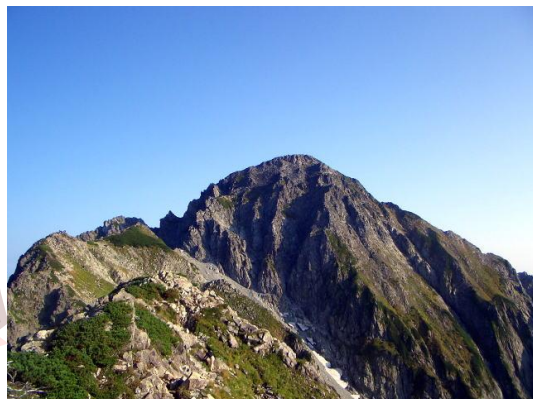
一ノ越で小休憩し、ガレ場の急登を超えると、雄山に着いた。風の強い神社の岩場には、イワギキョウの青色が力強く生えていた。安全を祈願し、お払いを済ますと、鹿島槍、五竜が遠くにその威容さをほこっていた。



強風の中を行くと、眼下には黒部湖、やや右手には針ノ木岳が見えた。富士ノ折立のガレ場は相変わらず風が強く、昼飯は大きな岩場で風をしのいで食べた。別山には登頂せず迂回し、劔山御前小舎のあたりまで来ると、前劔が覆いかぶさるように、その威容さを誇っていた。

少し行くと、目的地の劔山荘が赤銅色の屋根を劔岳のふもとに小さく見せていた。

風呂があります、水洗トイレ、廊下は夜間照明、至れり尽くせりの小屋でのビールは格別である。明日の晴天を夢見ておやすみ。



320名の宿泊であったが、80名の朝食をすませてまず一服劔で前劔を望み、前劔では、一服劔を振り返り、さあ、本命の劔岳へと目をやる。荒々しい岩肌は過去に多くの人命を傷つけ、深くえぐられた谷は命を奪い、この沢のどこかに幻の滝があるそうだ。

山口好子さんがリタイアし5名で登頂することにした。カニノタテバイでは70名の順番待ちで、10mのほとんど垂直の岩を1分で2名の間隔であった。

頂上に着いた時はガスがかかっている何もみえなかった。記念写真だけ済ますと、カニノコバイや、梯子やら、岩を巻いて前劔で振り返ってみると、2度もその威容さに圧倒された。

晴れていたら、北アルプス、遠くは富士山が見えるらしい。

劔沢小屋からは、雷鳥沢のテント場をめざして下山、地獄谷のルートでみくりが池温泉で疲れをとり、安全に山行ができたことに感謝して乾杯。

このたびは、まずまずの天候に恵まれ、全員が無事下山できたことに感謝しています。



劔岳の絶壁をカニの横ばいで・・・スリル満点

◆ 小野アルプス（紅山からユピカ温泉）

山行日：05-9-23（金）・・彼岸中日祝日 晴れ

参加者：L 砂川延 SL 今山 金島 西村 野々村 船津 舛賀 待場 吉井
山本正 渡邊 一般・・・（大橋 小谷 山本敏） 計 14 名

コース ユピカ駐車場 9:00 集合（車で移動）⇒ 鴨池（女池） 9:20～

紅山 9:50（ロープ、カラビナを使用して紅岩での登下降トレーニング 11:40 まで）

～小野富士 12:20（昼食）～アザメ峠 13:40～ユピカ温泉 15:30

【感想】 金島

ザイル、シュリング、カラビナ 名前は聞いたことはあっても、おおよそ私自身がこの道具を使うことがあるとは今まで思ったことは無かった。播州の山、小野アルプス縦走とこれらの道具の実地訓練が今日の山行目的。9 時に全員ユピカ温泉に集合する。最近建てられた施設のように建物も新しく今日の山歩きの仕上げはこの温泉に浸って帰るのが予定。鴨池までは車に分乗し 14 名は紅山に向かって歩き始めた。緩やかな坂道にどんぐりなど落ちていて枯れ草を踏みしめながら歩く。のどかな初秋の山はとても気持ちいい。歩くことには少しづつ慣れてきているので今日の私は余裕を持って歩いているような気がする。40 分くらい山に入ったところで紅山が見えてきた。山というよりも赤膚の岩山で地中から噴出してきた溶岩が固まったように見える。この岩を登るという。高御位山の百間岩と似ているが傾斜はややこちらが急勾配気味、見るからに私を拒絶しているように見える。岩肌のごつごつして太陽に照らされ熱く焦げたような臭いもする。突起が多く足の掛け場はたくさんあり勇気を出して岩にしがみつく。絶対に下を振り向かないで必死で登り始めた。岩にまっすぐ向かって体を岩から離し 3 点支持と座学の時に学んだことを頭の中に繰り返しながらゆっくりと登る。岩の天井が見えてきた時「できたー」。額と脇にどっと汗がふきだしてきた。天井の岩の真ん中にザックを降ろしまず水を飲む。胸のドキドキが落ち着くと眼下には里が見え、山陽高速道路を行き交う自動車が小さく見える。高速道路のすぐ傍にこんな岩山があったとは知らなかった。14 名全員登り終えて本日の学習目的、ザイルを使っ



ての岩山登下降トレーニング開始。砂川リーダー、今山さん達が 2 箇所の木にザイル固定完了。それぞれ用意してきた新品のシュリングを自分の上体にハーネス状に固定。小さいシュリングにカラビナを巻きつけ用意してもらったザイルに固定。物々しげではあるがこのロープに命を掛けるとなると真剣にならざるを得ない。カラビナを繰って岩の下に下りていく。恐る恐る手を離してみる。アッ、大丈夫、体はザイルにしっかり結ばれている。道具類のイメージは座学の時と実際に山で使ってみた時の感触とは違うものだなと思った。山本さんに雄姿を写真に収めてもらいカラビナを上部へ繰りながら登る。先ほど素手



で上ってきた時よりも遥かに登りやすい。次、野々村さんと交代。山行計画にザイル使用訓練と知ってから私にできるかしらと憂鬱に今日を待ったのがうそみたい。終わった時には「面白かったかも・・・」

しかしこのシーンだけは主人には絶対に話せない・・・全員トレーニングが終わり紅山を下る。昼食先のキスミ見晴らし台に向かって歩いた。9月の日差しはまだまだ強いが風は本当に気持ち良い。12時前見晴台に到着。はるか下を走る車を見ながら昼食を済ます。12時30分出発。

山を下り、山を登っていく。きのこがそこかしこに生えていて形のいい物、真っ白なもの、朽木にへばりつくように生えているのは黒くてゴムのタイヤのよう。道の両側にはこぼれるように萩が咲き、女郎花、桔梗、ススキ、葛 七草を数えながら山道を行く。遠い昔、この山中にひっそりと咲く花たちを旅する人たちは見たのだろうか。山上憶良の「秋の野に咲きたる花を指を折りかき数えれば七草の花」を思い出し一人感傷的になりながら歩く。NTT無線中継所まで来た。広場になっていて桜の木がたくさん植えてあり里の近いことを感じる。残っているボトルの水をゆっくりと飲み皆さんと冗談などたたきながら十分に休憩。「あの丘をしゅるっと曲がればもう温泉や。」得意な舂賀さん流の励ましに後を追う。予定通り午後3時半ユピカ温泉に下山した。入浴の後、シュリング、カラビナをタオルでふき取りザックの底にそっと納めて帰途に着いた。今日は面白かった。完



◆ 西六甲縦走 待場

日 程 05-10-1 (土)

(計10名)

参加者 L:今山:石橋 金島 西村 野々村 待場 山本正 渡邊 一般 大橋 小谷
コース&コースタイム (下記)

場所	着 時刻	発 時刻		内容	
山電塩屋		8:00			トイレ
旗振山西手前	8:30	8:35	休憩		
旗振山頂上	8:45	8:50		眼下のすばらしさ	トイレ有り
高倉台地	9:15	9:20	休憩	3名別道から	
梶尾展望	9:50	10:05	休憩	暑い 見晴らしよし	
馬の背	10:30		写真撮影	スリル・ちょっと恐怖	
妙法寺	11:30	12:00	昼食	とんびのぴーひょろ	トイレ有り
ひよどり越駅	12:45		休憩	市街地徒歩	駅トイレ
菊水山頂上	14:15	14:30		階段多い きつい坂	
鍋蓋山頂上	15:35		写真撮影		
市ヶ原桜茶屋	16:30			キャンプ青年たち大勢	トイレ・自販
布引滝	17:05	17:10		水少ない 滝総長 43 メートル	
新幹線新神戸	17:30		通過	全員無事到着	
三宮	17:55			解散	

J R 塩屋駅に集合、良いお天気に恵まれ出発する。

旗振り山、鉄拐山そして高倉台を抜けての長い階段、上をあまり見ないようにゆっくりと登っていった。

次は梶尾山、横尾山、いまでも心によく残っている馬の背、少しここに居たい気がした。妙法寺で昼食、長楽寺～ひよどり越～菊水山までの一般道での暑かったこと。

早く山中を歩きたいと思った。神鉄ひよどりごえ駅の所で休憩、アイス（氷）の美味しかったこと。やっとな菊水山、見晴らしもよく思っていたより楽に登れた。そして鍋蓋山～大竜寺へ、市ヶ原で大きなザックを背負ったグループに出会い、次の大峰山のことが頭に浮かんだ。「頑張ろうと」「山が好き」楽しく縦走することが出来てとても嬉しく思いました。



◆ 《世界遺産》大峰・行者還り～大普賢岳

山行日：05-10-8（土）～05-10-10（月） 2泊3日

参加者：L 砂川延 SL：今山 石橋 金島 西村 野々村 待場 一般（大橋 小谷）

コース：（下記）

場 所		着時刻	発時刻		内 容	
JR 加古川	曇		8:10		7名レンタカー・2名自家用車	
壺阪			10:40		R169(経 阪神, 環状, 阪和, 西名阪)	
吉野路大淀		11:00		休憩	柿, 栗など安い	
和佐又ヒュッテ		12:20	13:00	弁当	明日はここで宿泊予定	
行者環 TN 西口	雨	14:00	14:12		雨、登るか思案も登ることに	
途中		15:20	15:25	休憩	雨風、大台原景色(原生林に短背の笹)	
奥駆分岐		15:40	15:45	休憩	男3人グループ会う小屋が使えるそう	
途中		17:00	17:05	休憩	世界遺産らしく雄大な自然	ガス、きのこ
行者環避難小屋		17:30		泊	きれいな小屋, 先客有り[尼崎]	
夕食		18:30	21:00	就寝	レトルトカレー汁・漬物、ご飯	おいしい
10月9日					今日は晴れそう(西空が明るい)	
起床	曇	5:00			朝食(卵雑炊もち入り)6:00	荷物整理
行者環避難小屋			7:00		お世話になりました。	
水場所		7:15	7:30	休憩	昨夜の用水はここから, 零水をいただく	服調整
行者環岳	晴	7:50			平らな場所にザック置き空荷で頂上	1546m
		8:00	8:05		ザックのところ	
7 曜岳		9:15	9:30	休憩	途中鉄鎖所々あり すばらしい眺め	1584m
国見岳		10:05	10:20	休憩	途中鉄鎖所々あり すばらしい眺め	1636m
途中		11:15	11:20	休憩		
大普賢岳頂上		12:00	12:20		頂上感激、壮大なパノラマ、弥山、八経岳、大日岳	1780m
分岐		12:40	12:50		ここにザック置き空荷で(ナップザック)	
女人結界		13:30	13:40		信仰の場所、しるし等有り	
		14:25	14:35	休憩		
分岐	曇	14:40	14:50		ザックのところ。いよいよ下山	
小普賢 石ノ鼻		15:45	15:50		岩, 長い段はしご、すべる木道	怖い
佐 和 又へ		17:15	17:20		ここからアクシデント誤道。金島歩けない	ツェルト泊3名
	雨	18:00			5人→碑文石のあるところへ戻る。	テント泊 5名
10月10日	雨	6:00			SL: 今山さんと大橋さん来る。	
佐和又ヒュッテ	雨	8:00			お風呂頂戴する。	
佐和又ヒュッテ	雨				朝食(豚汁, 大根酢の物, なめこ, 山采金平、のり、卵	
			10:00		帰途へアクシデント有も総じてすごく楽しかった	

—山行の総括—

★ 山域(山名) : 大峰【行者還岳、大普賢岳】

報告者: 砂川(延)

山行期間 : '05-10-8(土)午前8時 ~ '05-10-10(月)

2泊3日

10月8日(土)天候曇りのち雨

予定通り和佐又に車1台留置後、行者還トンネル西口にレンタカーのワゴン車で参加者全員が移動する。トンネルを出ると雨が降っていた。雨中で出発となる。先着のグループが10数人タープの下で食事を取っていた。話を聞くと、悪天のため登山は明日にしている。どうするか一瞬迷うが、相談の結果予定通り行者還小屋まで行くことにする。奥駈け道に上がる途中から豪雨となる。

荷が重くなかなかピッチが上がらないまま小屋に17時頃到着する。立派な避難小屋があり、先客が一組いたが、3室のうち2室(1F、2F)を使わせてもらうことになり、テントを使うことなく雨天の中、快適な一夜を過ごすことができた。もう少し小屋の状況が掴めていれば、テントを担ぎ上げる必要は無かったとも考えられるが、宿泊者の動向がつかめない避難小屋を宛にすることはできない。何はともあれ登山者が少ないことが幸いであった。

遅く(日が暮れてから)着いたため水場が確認できず同宿の登山者に教えてもらった。これも同宿者がいなければ、暗くなってからの到着では分からなかったところだ。

10月9日(日)天候曇りのち時々晴れ

朝5時起床、7時出発を予定して準備する。今日の行程は天気に恵まれればフルに活用し、計画からは長い歩行時間が予想される。行者還岳を東側からまき、まずザックを出会いにデポして北側から南に向かって頂上に上がる。頂上からの眺望は樹林に囲まれ良くない。東側の樹間から大台方面の稜線が見えている。

行者還岳から七曜岳、国見岳を通り大普賢岳にいたるが、道中は笹の下草に覆われた斜面にブナとの混合林、大峰を代表する景色と岩稜帯が交互に現れ、最後は大普賢にあがる急登を登りきる。360度の展望に歓声を上げる。しばらく頂上からの眺望を楽しんだ後、和佐又の出会いにザックをデポ、前回の太峰山行の宿題であった阿弥陀が森の女人結界を往復する。空荷のためコースタイムより早くデポ地に帰りつく。

大普賢から和佐又までのコースを時間的には軽く考えていた。石の鼻までの多くの階段の傾斜がきつく、滑落の危険に対する警戒から、かなりの時間を取られる。ザイルを使うか迷うが、そのまま降りることにする。後で考えれば、ここで少し気持ちに焦りがあった。

和佐又ヒュッテの出会いに着いたとき、環境省の調査のためのアンケートにつかまる。時間が取られそうなので先に行くように指示する。これが間違いの元となる。まっすぐ降りると5分もすればテンバを通りヒュッテが見えてくると判断した。しかし、ヒュッテには到着していなかった。ザックを置き上に見に行く。下山してこないの、アンケートをしていた青年と再度大台方面登山路に調査に行くも発見できずヒュッテに引き返す。

ヒュッテの主人と相談すると間違いに気がつき下山してくるよと慰めてくれる。間違っ169号の和佐又口に行っていると2時間から2時間30分は時間が掛かるそうで、その時間を見計らって車を出して探してくれることになる。夜明けとともに大台方面を一周することで当夜は落ち着くこと

にする。

結果は標識の判断を誤り、大台方面へかなり入り込んでから誤りと判断し引き返そうとするも体力的に無理な人が出たりして、3人が現地でビバーク、5人は標識の場所まで引き返しテント泊となった。

10月10日(日)天候雨

朝夜明けとともに、ルートに入りしばらく歩くと前方より歩いてくるパーティーの仲間を発見する。事情を歩きながら聞き、登山口に帰る。昨夜よりあった登山口のテントに就寝していたことを聞き驚く。

テントを撤収しヒュッテに全員で帰り、ヒュッテの好意で朝風呂に入れてもらう。入浴後朝食を用意してもらっていただき、やっと落ちついた気分となる。

問題点と課題

- ・リーダー指示の曖昧さが引き金となった。出会いから直ぐ下がヒュッテという甘い判断があった。
- ・長い行動時間から(10時間あまり)開放されるという浮かれた気持ちがあった。
- ・秋口の日照時間を考えに入れた余裕が計画に必要であった。
- ・分岐点で終着点であるヒュッテとの位置関係を頭に入れておく

★【行者還りから大普賢】 感想文 西村(知)

大普賢岳からの景色に
大感激！！



大峰山系行者還から大普賢山行に参加するにあたり、小野アルプス、六甲のトレーニング山行に参加して備えてきましたが、何しろボッカ山行は初めての経験なので、正直前日まで参加することに迷っていました。

「登ったら自分の脚で降りてくるしかない」と言われたことを心に留めて家を出発しました。

第1日目の目的地、行者還小屋へ雨対策をしての出発となった。

原生林の笹を機械で刈ったかのように、短背の笹が揃っていた。

それは見事な光景でした。鹿が食べていたからだ聞き、又びっくりしました。人間の良く通るところでは笹は伸びていました。人間と動物が共栄・共存できたら良いのにと感じました。

笹の合間に咲いているリンドウを見ては「けなげだなあ」と思ったり、「頑張れよ」と励ましてくれているように思いました。

途中で男性三人のグループと会い「避難小屋が使えますよ」と言われたときは嬉しかった。

夕食はカレースープでした。カレー味がきついのではないかと考えていましたが、カレー独特の後味は無く、まろやかで口あたりの好いスープでした。

二階の部屋を使わせて頂いたのですが、階段が垂直だったので、上がり下がりになんとか苦労しました。

朝起きて一番に空を見上げました。雨も上がってひと安心。モチ入り卵雑炊をいただき荷物整理をして出発となった。

昨夜の水汲み場で霊水を頂き、元気に大普賢岳を目指しました。日が沈みかけての水汲みは大変だと思い、早出、早着きの大切さを実感しました。

行者還岳、七曜岳、国見岳と景色を時々眺めることができました。大普賢岳頂上に着いたときは感激し、色々なことが交錯し胸が熱くなりました。

大普賢下の分岐点にザックをデポして、阿弥陀が森の女人結界往復、サブザックだけだったので身軽さを堪能しました。

分岐に戻り、和佐又に向かって下山途中に休憩した所、石の鼻から見た光景は今までの苦難を吹き飛ばし、和佐又へ下山する気力をいただきました。

和佐又ヒュッテまで、1時間15分の標識を見て、それを励みに最後の階段を降り、ヒュッテに着いたと思い大喜びをしましたが、そこは広場であって目的の場所ではなかった。

緊張の糸が切れ思考力が落ちて、少し考えれば分かることが分からなくなっていた。

この小さなミスが複合的に重なり、大きな事故の元になるのだと感じました。

和佐又ヒュッテのお父さん、お母さん、皆様方にご心配をおかけして申し訳ございませんでした。本当にありがとうございました。

― 追伸 ― 帰路に立寄った柿の葉寿司は、夕食の食卓に上り家族に大好評でした。



◆ 一山山行 渡邊(俊)

日程 平成17年10月22日(土)～23日(日)

参加者 L: 山内 石橋 野々村 原田 渡邊 一般 武内

行程 【1日目: 一山、2日目: 須留ヶ峰山行は雨で中止して 自然観察路散策】

1日目: 運動公園 8:00⇒一山入口の駐車場 10:30⇒登山口 10:20⇒一山山頂 11:30
(休 10)⇒駐車場 12:10(昼食 20)⇒阿舍利山登山口 13:12⇒駐車場着

14:00⇒まほろばの湯 15:00着(入浴 45)⇒千町小屋(宿泊) 16:25着

2日目: 雨足が強く予定していた須留ヶ峰山行は中止。10時頃になって小雨状態になったので、近くの自然観察路の散策に出掛けた。

10:00出発⇒50分ほど登って来た道を下山



参加者6名は2台の乗用車に分乗して出発。途中、夜の食材を仕入れ目的地に向かった。一山の駐車場に到着後、早速、準備をして出発。

暫く山沿いに歩き登山口に到着。ここから登りになる。登山道は踏み後が少なく登山者は少ないように思われた。50分で山頂に到着。周囲の展望はよく遠くまで見渡すことができた。山頂は風があったせいかかなり寒かったため早々と下山する事にする。下りになるとススキが登山道に覆いかぶさっていて足元が非常に見難かった。みずきの木は既に紅葉していたが、本格的な紅葉はまだ先のようであった。駐車場で昼食にする。時間に余裕があったので、林道を散策しながら少し先の阿舍利山登山口までを往復。

近くの温泉「まほろばの湯」で汗を流した後、宿泊先の千町小屋へ。千町小屋は80畳程の大きな板の間と、他に2部屋があり、立派な施設である。その上自家発電、ガスレンジ付の炊事場、ストーブ、シャワールーム、水洗トイレ付で初めての私は驚かされました。



夕方は星が沢山見えていて明日も天気と思っていたら夜半より強い雨が降り出す。朝になっても降り止まないためリーダーが当日の山行中止を決定。

ところが10時頃から小雨になったので、急遽、近くの自然観察路の散策に出掛けることになった。観察路はよく整備されていて歩き易かった。50分で頂上付近まで登り、いろんな木や「きのこ」を見かけたが、名前の分からないのが沢山あって「きのこ」や木の名鑑があればよかったな~と思った。散策で「きのこ」や栗、梨などを持ち帰り「ゆで栗」や「きのこ雑炊」を作り山の食材を楽しむことが出来ました。

今回利用した千町小屋は設備も環境も良く又利用したい施設でした。



千町小屋



一山山頂

【編集員より】



☆：夏山シーズンも終わり皆さん楽しい思い出を沢山作られたことと思います。私も三の峰、甲斐駒ヶ岳、鉢ノ木・蓮華岳の山行に参加、シンドイ登山でしたが、アルプスの素晴らしい眺望に感動いたしました。次は秋の山を楽しみたいです。
渡邊

☆：「天高く馬肥ゆる秋」です。おいしいものを食べていろんな山へ行きたいです。もっと多く山へ行く計画をしてください。 坂本

☆：先週、県立なか・やちよの森公園へ行ってきました。1時間半程のハイキング
を楽しんで来ました。 野々村

☆：山行のベストシーズンとなりました。熊が出てきて怖い季節但也有りますがなるべく多く山行に参加したいと思っています。 ヤマ

☆：月2回の編集会議は山に登ることと違って、また、おもしろい。あまり役に立っていないけど、まあ、それはそれで…。 原田

☆：夏山教室から山登りの楽しさを覚えもう季節は秋になりました。登った山に秋の想いを馳せる毎日です。 かねしま